

「事務局だより:H25年10月6日号」

平成25年7月20日常任幹事会議事録

常任幹事会議事録

7月20日(土) 2:00pm-4:00pm 京王クラブ

小林、羽中田、志田、雨宮、塚田、佐野、坂野、深澤、河西、渡辺

議題

1. 会長挨拶

6月23日開催のH25年度総会・懇親会は来賓、会員、恩師、甲工OB・現役及び役員各位の協力を得て、盛大に無事終了出来た。総会は概ね成功であったが、反省点もいくつか見つかった。

本日は総会の総括と次年度総会へ向けての活動計画について議論をお願いしたい。

2.H25年度総会・懇親会報告

- 1. 「総括」(別紙)報告が事務局よりあり、了解された。
- 2. 出席者により、次年度に向けての総会改善点の検討及び総会出席会員拡大策等が議論され、幹事分担し推進することとした。

総会関連主要発言

- ① 総会参加者の感想は概ね満足したとの事であった。
- ② 大幅に変えた総会誌の内容は好評であった。
- ③ 会誌の投稿記事は好評で、会誌だけの希望者もいた
- ④ ピンクダイヤモンドは好評であった。
- ⑤ 女性司会者も特に異論なく良かったが、会員でも良いのではないかとの両論あり。
- ⑥ 発送書類が充実していたが、その分膨大になり受け取る方が大変であった。
- ⑦ カラオケなどの予約は郵便では難しい。
- ⑧ 出席者の人数に用意すべき総会詩が足りなかった。

総会出席拡大策主要発言

- ① 常任幹事で部会を形成し小さなグループで活動する。
- ② HPを充実する。
- ③ 賛助会員の発掘
- ④ 団塊の世代と呼ばれる年齢層の発掘
- ⑤ 同窓会の名刺を作り活用する。
- ⑥ その他、日常での会員同士の交流など

3.平成25年度東京同窓会活動計画

平成25年度東京同窓会活動計画と推進体制が討議され、会員各位に対し更に魅力ある同窓会・総会にすべく改革を行う事とした。推進体制は今年度より新たに部会制度を導入し、幹事一人一人が従来にも増し役割を演じ、会長をバックアップし会運営に協力する事とした。

以上
(事務局長 志田保夫)

(別紙) 平成 25 年度甲工東京同窓会総括

2013 年 7 月 20 日 事務局

平成 25 年度総会・懇親会は 6 月 23 日(日)、明治記念館で開催し、概ね、成功裏に終了することが出来ました。今回の総会は、総会冒頭の小林会長挨拶でも述べられましたが、会員にとって魅力ある同窓会・総会にすべく改革を実施しました。その為に、過去の成果を踏襲しつつ当日イベントの充実、総会誌の全面改定、賛助広告会員拡充・個人協賛会員新設等を行い、案内状も封書で丁寧な内容としました。その結果、発送数 2,088 通に対し、回収率 31%、当日参加者 82 名、合わせて念願の自前による「東京同窓会 DB」の構築を図ることが出来ました。科別では特に M 科が 7 名でピークの H21 年度 27 名から激減し、動員については課題を残しました。クラス会との連動による参加会員勧誘等も一案となります。

来賓は本部同窓会・母校関係者等 33 名のご出席を仰ぎ、保坂会長、斉藤校長、布施所長よりお言葉と我が東京同窓会への激励を戴き、本部・母校の発展への御尽力になみなみならぬものを感じました。又、明治記念館控室、総会会場へのご案内はタイムリー且つスムーズに行う事が出来ました。

会員の総会への参加目的はクラスメンバー、恩師、同級生との再会・懇談が最上位へ位置します。総会がその為の段取りがされ、時間の許す限り昔話に花が咲くような雰囲気作りが大切であり。その為の参加者への時間的ゆとりが必要となります。今回の総会・懇親会は司会者の進行も宜しくスムーズであったと好評でありました。

イベントはピンクダイヤモンドのフラッグダンスは好評で参加者は英気を養う事が出来たようです。カラオケコーナーは次年度以降、参加者募集を含め更に工夫が必要となりました。抽選会は下等賞品手渡しに工夫を要しました。

賛助広告会員は新規に 4 社のご協力を戴きました。一方、新設の個人協賛会員は 21 名と多数の方から賛同戴きました。次年度は更なる拡大に向けた不断の活動が必要とされます。

総会誌は概ね賛同を得ることが出来ました。「投稿コーナー」は都合 21 件の投稿があり、何れも力作であったと思います。デザイン、紙質、掲載内容等更に検討し、来年度へつなげたいと考えています。本冊子は特に次年度賛助広告会員勧誘の際の活用ツールに予定します。

HP・メールは今回の総会案内及び出欠回答に活躍しました。「投稿コーナー」は 21 件中 18 件、総会出欠回答も 30 件メール利用が有りました。会員のメールアドレス登録は 101 件に及びました。とは言え、次年度総会案内・回収について、メールへの全面移行は時期尚早の感があり、書面と並行して進めるのが良いと考えています。又、メール対応は会長初め事務局の受け口(メール BOX)事務の簡素化に更に工夫が必要となります。会員拡大・横連絡にはメルマガ・Facebook 研究が次の課題となるでしょう。

東京同窓会活動は、役員就任・活動共自主的に執行がされていますが、会員の多くは継続的同窓会活動を望んでいます。若い卒業生の参加が少なく参加会員の平均年齢が上昇する中、次の役員候補発掘は大切な事項となります。現行の体制に本部方式の「当番幹事」(将来の役員予備軍)を絡ませるのも一案でしょう。

今回初めてアンケートを実施しました。皆さんから貴重なご意見を戴きました。今後の東京同窓会活動に生かして行きたいと思います。

有難う御座いました。

以上